

Title	「ハイ フリクエンシー カーレント」(高周波電流或ハ振動電流又名テスラ氏電流)ノ齒科治療上ニ於ケル効果ニ関スル實驗的及臨床的研究(三)
Author(s)	遠藤, 至六郎
Journal	齒科學報, 19(7): 12-30
URL	http://hdl.handle.net/10130/1608
Right	

化ノ程度ハ歐洲人種ニ讓ラズシテ遙ニ歐人ノモノヨリモ退化セルヲ認メタレドモ第一第二大臼齒ニ於テハ未ダ歐洲人種ノ如ク退化ヲ來サルヲ知ルベシ

食物ノ調理法ガ文明ノ進ムニ從ヒ益々精巧トナリ咀嚼力ヲ要スルコト愈々減少セラル、ガ故齒牙ノ退化又著明ナルヲ思ハザルベカラズ此ノ調査ヲナスニ到リシハ吾人ノ齒牙ガ世ノ進歩ト關係ヲ有スルモノニシテ其ノ咬頭ニ就キテ之ヲ調査スルハ齒牙形態學上又人類學上ヨリシテ多少ノ興味アルモノト考ヘタレバナリ

○「ハイ、フリクェンシー、カーレント」(高周波電流或ハ振

動電流又名テ斯拉氏電流)ノ齒科治療上ニ於ケル效

果ニ關スル實驗的及臨牀的研究 (三、第十九卷第三號ヨリ續キ)

The Experimental and Clinical Studies on the Value of "High-frequency Current or Tesla's Current" in Dental Treatments.

(Continued from Vol. XIX, No. III.)

滿鐵大連醫院齒科口腔科 遠 藤 至 六 郎

第九節 齒科治療上應用(適應症)及其效果ニ關スル諸家ノ研究成績

上述セルガ如キ **HFC** ノ諸作用ヲ利用シ我ガ齒科領野ニ於テモ又種々ナル疾患ニ應用シ着々著效ヲ收メツ・アリ F. Morel, Dr. Foveau de Courmelles, Dr. C. H. Parker, D'Arsonval, Dr. D. Néff ノ諸氏ハ主ナル齒科的適應症トシテ

(一) 骨及粘膜面ニ於ケル新生物

甲、口蓋及上下唇等ニ發スル癌腫

乙、上顎骨及齒齦等ニ發スル上皮腫

丙、「エプーリス」及纖維腫等

(二) 齒槽膿瘍及囊腫

(三) 出血

(四) 種々ナル口内炎

(五) 神經痛及牙關緊急

(六) 齒槽膿漏及齒齦炎

(七) 拔齒其他齒科的小手術ニ際シ局所麻醉ノ一法トシテ

等ヲ舉ゲタリ

予ハ予ノ臨牀實驗成績ニ徴シ以上ノ諸疾患ノ他

(八) 頑固ナル齒槽膿瘍或ハ骨膜下膿瘍等ノ經過後往々齒齦頰粘膜移行部若クハ外頰部ニ遺殘スル
硬結

ノ一項ヲ齒科的適應症トシテ追加セント欲ス

茲ニ齒科的疾患ニ對スル臨牀的效果ニ關スル諸家ノ成績ヲ記述スルニ先ダチ Dr. F. Morel ガ口
腔内ヨリ得タル試驗材料(主トシテ膿汁)ニ就キテ佛ノ齒科教授 Prof. Fovenu de Comnelles ガ他
ノ材料ニ就キテ各々齒科醫家ノ見地ヨリナセル二三ノ實驗成績竝ニ米ノ齒科醫デイー、チッフ、バー
カー、マテール、佛ノコーメル、モーレー等ガ擧ゲタル齒科的效果ノ理由一二ヲ簡單ニ記載セン

一八九六年佛ノコーメル及チヤーリンノ兩氏ハ病原性桿菌ニ就テ他ノ二三ノ學者ハ緣膿桿菌ニ就
テ研究ノ結果 **HFC** ハ是等桿菌ノ毒性及「エナージ」竝ニ色素產生力ヲ絶對ニ消滅セシム若シ三十分
間連續應用スル時ハ該桿菌ハ全部死滅スベシトノ見解ヲ發表シコーメル氏ハ其著袖珍齒科電氣治療
法 Manuel D'Electro Therapie Dentaire ニ於テ其結果ヲ詳細ニ記シ曰ク細菌毒素ハ **HFC** ノ作用ヲ蒙
ル時ハ雷ニ其毒力ヲ減ゼシメラル、ノミナラズ尙電力ノ影響ヲ受ケテ一種ノ「イオン」化物 Ionized
Substances ニ變ズルモノナリト論ゼリ

(氏ノ研究方法及成績等ハ第六節ニ略述セル Charin, Boneure, Viola, D'arsonval, Casciavi 等ノ
ソルト殆ンド同ジ第六節參照)

モ氏ハ以上ノ成績ニ鑑ミ口腔内ニ於テ多量ニ發見セラル、主ナル細菌ニ就テ實驗的研究ヲ行ヒ次記ノ結論ヲ下セリ

「HFCハ現時知ラレ居ル最モ強力ナル殺菌劑ニ比シ尙ホ遙カニ優秀ナル殺菌力ヲ有ス」云々

モーレー氏ノ實驗

(1)顎下膿瘍ヨリ膿汁ヲ取り之レヨリ四聯球菌 *Tetragenus Micrococcus* ノ純培養ヲ作り之レヨリ(本菌ハ既ニ知悉セラル、ガ如ク頰部膿瘍ノ分泌物中ニ於テ最モ普通ニ認メラレ又時トシテハ膿毒症ノ原因ヲナスコトアリ或ハ又結核患者ノ喀痰膿漏分泌物中竝ニ重症潰瘍性義膜性口内炎ノ際ニモ發見セラル) 菌毒素ノ三立方仙迷ヲ取り「モルモット」ノ股部ニ注射シタルニ接種後直ニ劇烈ナル瘰癧ヲ發シ其接種部ニ一種ノ癰ニ類スル相集合セル小膿疱ヲ發シ二十三時間後ニ斃レタリ

之レニ反シ同一「トキシシン」ヲ一時間ニ互リHFCノ作用ヲ蒙ラシメタル後三疋ノ「モルモット」ニ接種セシニ何等ノ病變ヲモ發セザリキ然ルニ三疋中ノ二疋ハ二十三日生活ヲ繼ケタル後一疋ハ六日後ニ孰レモ死亡セリ依テ夫レノ剖檢セシモ何等ノ病的變狀ヲモ認メ得ザリキ故ニ予ハ此死因ヲ以テ全ク「トキシシン」以外ノ或ル不明ノ原因ニ因スルモノナルベシト信ズ

(2)重症多發性齒槽齒牙關節炎 a grave Alveolo-Dental Polyarthritits (齒槽膿漏) 患者ニ發セル「アブセス」ヨリ膿汁ヲ取り之レヨリ連鎖狀化膿球菌及黃金色葡萄球菌ノ純培養ヲ作り二疋ノ家兔ニ夫

レ夫レ注射セリ

同時ニ又同一「トキシシン」ヲHFCヲ以テ處置シタル後チ他ノ四疋ノ家兔ニ注射セリ

第一回ノ二疋ハ共ニ注射後速ニ瘦削ヲ來シ八日後膿毒症ニテ斃レタリ

HFCノ處置ヲ受ケタル「トキシシン」ヲ注射セル第二回ノ四疋中三疋ハ注射後三週間良好ナル生活ヲ繼ケタリ一疋ハ非常ニ瘦削ヲ來セルヲ以テ直チニHFCノ「エツフルーヅバース」ニテ加療セシニ迅速ニ恢復セリ

③膿漏ノ末期患者ヨリ膿汁ヲ取り通法ニ從ヒ純培養ヲ作リ「トキシシン」ノ二立方仙迷ヲ「モルモット」ニ疋ニ注射セシニ二十七時間後一ハ痙攣ヲ發シ一ハ膿毒症ヲ起シ斃レタリ同一毒素ヲ四十五分間HFCヲ以テ處置シタル後三疋ノ「モルモット」ニ夫レノ注射セシニ何等ノ病變ヲモ惹起セザリ

氏ハ以上述ベタルガ如キ實驗ヲ約二百回反復施行シHFCハ口腔常在菌(主トシテ齒槽膿漏及齒槽膿瘍等ニ每常發見セラル、化膿菌)ニ對シテモ又偉大ナル殺菌力ヲ現ハスモノナルコトヲ確認セリ

重症齒槽膿漏劇烈ナル齒槽膿瘍及上顎竇囊腫等ニ對シテハHFCノ「スパーキング」法ヲ應用スル時ハ直チニ之レヲ治癒セシメ得ト云フアルソングアル氏ハ研究ノ結果HFCノ「エツフルーヅ」及

「スパーク」ハ共ニ脈管ヲ強ク收縮セシムル能力アルコトヲ發見シ重症動脈硬化症ニ應用シ著效ヲ收メ得タリ而シテモーレー氏ハア氏ノ研究セル此ノ事實ヲ利用シ止血ノ目的ニ應用セント企圖シ遂ニ成功セリ即チ幾多ノ臨牀實驗ノ結果拔齒後ノ止血法及爾他口腔内ニ於ケル種々ナル小手術後ニ發スル出血ノ療法トシテ最モ效果確實卓越セルモノニシテ屢々吾人が遭遇シ止血ニ困難スルガ如キ劇シキ出血ニ應用スル時ハ現今最モ有力ナル止血藥トシテ知ラル、モノニ比シ尙ホ遙カニ優秀ナル止血效果ヲ奏スルモノナリト論ゼリ

而シテHFCノ此ノ有力ナル止血力ハ全ク其ノ脈管收縮力ニ因スルモノナリトハ諸家ノ等シク唱道スル所ナリト雖モモーレー氏ハ此作用ガ決シテ單ニ動靜脈管ノ收縮ニノミ歸スルモノニ非ルコトヲ唱ヘリ即チ若シ然リトセバHFCノ應用中止ト共ニ當然第二次的出血ヲ來スベキ筈ナリ然ルニ事實ハ之レニ反スルヲ以テ見レバHFCノ止血能力ノ大部分ハ之レヲ脈管收縮ノ他ニ求メザル可ラズトナシ其理由トシテ曰ク「エツフルベシシヨン」ノ影響ヲ受ケシ破壊セル毛細管ハ一種ノ「スバズム」ヲ起シ他方當該創傷面ハ無數ノ血餅ヨリ成ル薄キ暗黑色ノ一層ヲ以テ被ハル、ニ至ルベシ即チ是等無數ノ血餅ハ破壊セル毛細管ノ損傷部ニ於テ形成セラレ漸進的ニ損傷口ヲ充塞シ依テ以テ血液ノ流出ヲ防止スルモノナリト云ヘリ

上記セル種々ナル作用性狀ノ他尙ホ「ハイフリクエンシースパーク」ハ稍々異リタル二種ノ作用ヲ

有ス其ハ、Dr. Reviere 氏ガ一九〇〇年八月バンノノ電氣療法及「ラヂウム」療法學會 Electro-Therapeutical & Radiological Medical Congress 席上ニ發表セル病的組織破壞作用及組織ノ「ミイラ」化作用ニシテ所謂溫度的化學的電氣的作用 Thermo-Electro-Chemical Action ト稱セラル、モノニシテ此ノ作用ニ就キテハ後年 Dr. Keating Hart, Dr. Juge 及 Prof. Poyzi ノ諸氏稍々最近ニ至リテハ一九〇八年 Prof. Albert Weil 及 Dr. Doyen 氏等ガ各々其研究業績ヲ發表スルニ及ビ益々其效果ヲ確認セラル、ニ至レリ其二ハ生活力ノ衰退セル組織ヲ生理的能力ニ恢復セシムル所謂榮養神經強壯的治癒作用 Tropho-Neurotic Curative Action ト稱ヘラル、モノ即チ是レナリ

特別ナル場合ヲ除キテハ齒槽膿漏、齒齦炎、口内炎及鎮痛法等ニ應用スル所謂「エツフルヴエーシヨン」法ニアリテハ前準備トシテ切開ヲ施ス必要ナク亦其「エレクトロード」ハ真空硝子管（近時米國ニニューヨーク市ノ Waite and Bortlett 社ヨリ發賣セラル、「ラルバークュームエレクトロード」ト稱スル硝子管導子ハ製作法ニ一種ノ改良法ヲ施セルヲ以テ長時間使用スル際往々生ズル熱ノ發生ヲ防止スル效力アルガ故ニ臨牀上極メテ有效ナリト云フ）ナルニ反シ「エブーリス」、急慢齒槽膿瘍、囊腫、癌腫其他良性腫瘍等ノ療法ニ應用スル所謂發火法若クハ輝煌法 (High Frequency Sparking, or Confaguration, or Fulguration 法) ニアリテハ「スパーキング」ヲ施スニ先ダチ前以テ當該疾患部ニ淺キ切開ヲ加ヘ置ク事最モ必要ニシテ亦用フル導子ハ金屬性導子ナリトス

而シテ「スパーク」ノ影響ヲ受ケタル組織ハ數日後一度ハ多少浮腫狀ヲ呈スルモ暫時ニシテ消散シ外皮ヲ以テ被覆セラル、モノニシテ其表面ハ常ニ良好ナル肉芽ヲ發生シ最後ニ癍痕組織ヲ形成シ治癒ス

モ氏ハ齒槽膿漏、齒齦炎等ニ對スル「ハイフリクエンシーエツフルーヴ」ノ治癒的效果ヲ

(一)絶大ナル殺菌力 (二)滲透作用

ノ二者ニ歸シ且ツ次記ノ方法ヲ以テ最佳トセリ即チ先ヅ齒石除去過酸化水素液含嗽等通法ノ療法ヲ可及的精細ニ行ヒタル上重「クロール」酸加里ノ二%乃至一%溶液中ニ浸シタル綿花ヲ帶狀トナシ齒牙ト同ジキ高サニ齒齦上ニ置キ然ル後チ硝子管導子ヲ堅ク綿花帶ニ接著セシメ通電ス此ノ際若シ金屬性充填物ノ存在セル場合ニハ該充填物ヲ「ガツタパーチャ」ニテ分離スルヲ要ス蓋シ金屬性充填物存在スル時ハ往々劇シキ疼痛ヲ感ズルコトアルヲ以テナリ尙ホ治療期間中ハ次記ノ含嗽ヲ命ス

「サリチール」酸曹達

一〇〇〇

弗化硅素酸曹達

二〇〇

水

一〇〇〇〇

右二日六回

(第四節第二、三項參照ヲ乞フ)

パーカー氏ハ膿漏治療ニ際シテハHFC單一法ヨリモX線トノ連用法ノ遙カニ優良ナル結果ヲ得

ルモノナルコトヲ論ジ次記ノ方法ヲ推奨セリ(「ハイフリクエンシーエツフルベーション」及「スパークキング」ヲ施行スル際ハ極少量ナリトハ雖モ常ニX線ヲ發生スルモノナリ) 齒石及血石等ノ沈著物ハ常ニ出來得ル限リ精密ニ除去スルヲ要スルハ勿論ナリ次ギニ過酸化水素液ニテ口内一般(特に齒頸部及膿囊等ヲ)ヲ所理スルコト通法ノ如シソレヨリ沃度、雙蘭菊、「ミルラ」及冬緣油ノ合劑ヲ齒齦ニ噴霧ス此ノ合劑ハ現今使用セラル、藥劑中最モ刺戟力強大ナルガ故ニ弛緩セル齒齦ヲ刺戟スル目的ニハ特ニ適當ナリ噴霧法終ラバ患者ヲシテ適當ノ位置ヲ取ラシメ一般X線療法ノ注意ニ從ヒ約一乃至二分間顔面ニX線ヲ放射セシメ然ル後チ特ニ顔面ニ適合スル様ニ製作セラレタル硝子管導子ヲ取リ「エツフルベーション」法ヲ施スベシ

顔面ノ療法ヲ終ラバ直ニ開口ヲ命ジ口腔用硝子導子ヲ齒列間ニ入レ(導子ヲ固定セシムル爲メ輕ク閉合セシム)通電ス一回ノ治療時間ハ症ノ輕重等ニ等差ヲ附スルハ勿論ナルモ大約五分乃至十分之レヲ行フ第二回目ヨリハ一ニ症候ノ如何ヲ考量シ間隔日數及時間等ヲ決スベシ而シテ齒齦ニ上記ノ藥品ヲ噴霧スルハ電解ニヨリテ藥品ノ分解ヲ促ガシ且ツ組織内ニ浸入セシムルニ在リ(第四節第二項第三節第七節參照ヲ乞フ) 尙ホバーカー氏ハ此際使用スル含嗽料トシテハ「ボロリフトール」 Borolyptol(「フオーマリン」ヲ含有ス) 最モ佳良ナリト云ヘリテツフ Dr. Milton D. Neff 一八九一三年十一月號ノ「ブリーフ」誌上ニHFCニ依テ生ズル紫色線ノ齒科的應用 The Violet Ray High

Frequency Current in Dentistry ナル題下ニ一文ヲ發表シ HFC ノ鎮痛作用及殺菌力ノ有力ナルコトヲ賞讃シ且ツ予ハ此ノ療法開始後ハ根端切除術ノ如キ全ク其ノ要ヲ認メザルニ至レリト極論シ其ノ效果ノ理由トシテハ諸家ト等シク鎮痛鎮痙強力ナル刺戟力及殺菌力ノ四ヲ擧ゲ術式又諸家ト同ジク「エツフルベーション」法ヲ稱用セリ

諸家ノ臨牀實驗成績

(文献ニ現ハレタル實驗治癒例甚ダ多ク且ツ各著者ハ孰レモ詳細ニ報告シ居レルモ全部譯出スルハ却テ冗長ニ失スルガ故ニ代表的症例二三ニ就キ大略ヲ譯出スルコト、セリ 著者)

(一)左側口角ヨリ發生セル高度ノ下唇瘡

五十三歳ノ男子

患者ノ主訴ハ甚シク延長且其尖端銳縁ニ終リ口唇閉鎖ニ際シ下唇ヲ刺戟シ屢々損傷ヲ來ス原因タル上顎左側犬齒ノ拔去及患者ガ其刺戟ノ爲ニ發生セルモノト信ズル下唇ニ於ケル小硬結物ノ所置ニアリ

予ハ診査ノ結果該小硬結ハ犬齒ノ刺戟トハ何等病因的關係ナキコトヲ斷定セシテ以テ單ニ銳縁ニ對スル所置ノミヲ施シ新生物ノ療法ハ之レヲ某醫ニ依托セリ

約一ケ年後某醫ハ該患者ヲ再ビ予ノ許ニ送り來レリ依テ診スルニ口角部ニ於ケル結節ハ頗ル増大

且ツ潰瘍ヲ發シ左側全頤部ハ勿論同側胸鎖乳頭筋部迄波及シ自覺症候亦漸ク増進セリ而シテ該醫ハ右潰瘍ノ原因ハ全ク犬齒ニ在リトナシ拔去センコトヲ要求セルヲ以テ之レヲ拔去セリ然ルニ更ニ二ヶ月後該醫曰ク該患者ニ對シ種々ナル療法ヲ講ゼシモ更ニ效果ナキヲ以テ此際放線療法ヲ施サンコトヲ提案セルヲ以テ該醫ト共ニ施行セリ即チ先ヅ「クロ、フオルム」麻醉ノ下ニ淺キ切開ヲ加ヘ一時間「スパーキング」ヲ施セリ翌日ニ至リシニ患者ハ頓ニ輕快ヲ覺エ他覺的ニハ繃帶材料ヲ常ニ間斷ナク交換セザルヲ得ザル程多量ノ淋巴液ノ滲出セルヲ認メタリ二三日後一般狀態極メテ佳良且ツ大ナル痂皮ヲ結ベリ此ノ痂皮ハ九日後ニ剝離セリ十六日後ニ至リテハ「フラン」貨大ノ小部分ヲ除クノ外殆ンド全部癩痕ヲ形成スルニ至レリ

二ヶ月後輕度ノ再發ヲ認メシヲ以テ更ニ新創面ヲ作り三十分間「スパーキング」ヲ行ヒシニ三週後完全ナル癩痕ヲ形成シ再發ノ徵ナカリシニ四年後肺炎ニテ鬼籍ニ入レリ

(二) 上顎左側齒齦及口蓋ニ發セル癌

四十五歳ノ女子

父ハ肝臟癌ニテ母ハ結核ニテ共ニ死セリ

患者ハ曾テ一九〇四年佛國巴里ニテ本症ノ手術ヲ受ケシモ再發シ某々醫ノ診療ヲ受ケシモ佳良ナラズ新生物ハ漸次増大上顎骨ハ動搖ヲ來シ癌腫特有ノ惡液質ヲ發スルニ至レリ

第一例ノ如ク「クロ、フォルム」麻酔ノ下ニ「スパーキング」法ヲ一時間行ヒシニ痂皮發生セリ

七日後該痂皮ノ剝離ヲ來セシヲ以テ更ニ三十分「スパーキング」ヲ行ヒタリ

二ヶ月後完全ニ癬痕組織ノ形成ヲ見六ヶ月後ニ至ルモ再發ノ徵ナシ

(三) 下顎右側ニ發セル「エプーリス」

三十七歲女子

特記スベキ先天性疾患ナシ

局所麻酔ノ下ニ「エプーリス」ニ對シ小切開ヲ加ヘ三十分間「スパーキング」ヲ施ス

六週間後完全ニ治癒シ後再發セズ一般健康狀態亦甚ダ佳良

(四) 上顎右側ニ發生セル「エプーリス」

三十五歲男子

局所麻酔ノ下ニ淺小切開ヲ加ヘ「エプーリス」ニ隣接セル上右第二小白齒及第三大白齒ヲ拔去シ三

十分間「スパーキング」ヲ行ヒタリ

一ヶ月後全ク生理的狀態トナリ二ヶ年後尙ホ再發セズ

(五) 同上

局所麻酔ノ下ニ淺小切開ヲ加ヘ三十分間「フルギユレーション」法ヲ行ヒタリ經過極メテ佳良一般

状態亦佳再發セズ

(六) 下顎左側ニ發セル纖維腫

二十九歳女子

腫脹鶏卵大一般状態甚ダ不良ナルモ患者ハ外科的手術ヲ受クルヲ好マズ拒絶セルヲ以テ「クロ、フオルム」麻醉ノ下ニ小切開ヲ施コシ一時間半ニ互リ強力ナル「フルギユレーション」ヲ行ヒタリ一ヶ月後完全ナル癍痕ヲ形成シ爾後再發ノ微毫モナシ

(七) 右側上顎竇膿瘍

本例ハ約二ケ年間種々ナル方法ノ下ニ竇炎ヲ治療セシモ毫モ治癒ノ傾向見エザリシモノナリ

先ヅ第一大臼齒ヲ拔去シ齒槽底ヨリ竇ニ向テ廣キ穿孔ヲ施セリ然ル後チ特ニ適合スル様ニ考案製作セシ「エレクトロード」ヲ用ヒ竇ニ向テ十分間「フルギユレーション」ヲ行ヒ翌日過「マンガン」酸液ヲ以テ竇内ヲ洗滌シタル後チ麻醉ヲ行ハズ單ニ「エツフルベーシヨン」法ニテ通電セリ

加療後第八日予ハ「ザロトルガーゼ」ヲ以テ竇ヲ充塞セリ更ニ二日後此ノ「ガーゼ」ヲ除去シ「クロ、フオルム」麻醉ノ下ニ極メテ強力ナル「フルギユレーション」ヲ五分間施セリ

予ハ患者ニ命ズルニ口腔内ヲ出來得ル限り制腐的状态ニ保ツベキコト、及流動食ヲ攝取スベキコトヲ以テセリ爾後八日間ハ毎日「ガーゼ」ノ交換ヲ行ヒシニ十五日後ニ至リ完全ナル癍痕ノ形成ヲ見

タルヲ以テ一週一回診斷ヲ繼續シ約二ケ年半ノ今日ニ至ルモ再發ノ徵候更ニナシ

(八) 左側上顎竇膿瘍

本例ハ約三年ニ互リシ慢性竇炎ナリ

(七) 例ト略ボ同一症狀ヲ呈セリ治療ノ必要上第二大臼齒ヲ拔去シ前例ト同様ナル方法時間ヲ以テ所置セリ

一ケ月後完全ナル癰痕ヲ結び治癒セリ

(九) 頑固ナル根端膿瘍

患齒タル上顎左側第一大臼齒根管ニ對シ所有消毒法及根管療法ヲ施セシモ毫モ治癒セズ

先ヅ局所麻醉ヲ施シタル上消毒セル「ドリール」ヲ以テ齒齦ヨリ膿瘍ニ向テ穿孔ヲナシ小形金屬導子(Dr. Gauthier 考案ノモノ)ヲ用ヒテ十分間強力ナル「フルギユレーション」ヲ行ヒシモ間モナク約一時間ニ互リ多量ノ膿汁及血液性滲出物ノ排出スルヲ見タリ約八日後創面ハ良好ノ状態ヲ呈シ十五日後ニ至リ齒齦ハ全ク生理的外觀ヲ呈スルニ至リ完全ニ治癒セリ

(一〇) 同上

患齒上顎右側犬齒

(九)ト同一症ナル故同一療法ヲ行ヒシニ十五日後ニ至リ完全ニ治癒セリ本症ハ本療法ヲ施ス迄ハ

毎週一回必ず膿瘍ノ形成ヲ見タルモノナリシガ「ハイフリクエレシースパーギング」ヲ施行セル後ハ毫モ再發セズ

(二) 下顎ニ發セル囊腫

淺キ切開ヲ行ヒ洗滌ヲナシタル上局所麻醉ヲ施シ約十五分間「コンフレーギユレーション」ヲ實施セシニ十五日後ニ於テ完全ニ治癒シ再發ノ徵更ニナシ

(三) 出血

A 手術後出血例

現今知悉セラル、凡テノ止血藥ヲ應用セシモ奏效セザリシヲ以テ麻醉ヲ行ハズ二三分間強力ナル「スパーギング」ヲ行ヒシニ迅速ニ止血シ第二次出血更ニ來ラズ完全ニ止血セリ

本患者ハ血友病性素質ヲ有シ從來拔牙後ハ必ず後出血ヲ來シ困難スト云フ

B 頑固ナル後出血

前例ト同ジク血友病性素質ナリ

二分間「フルギユレーション」ヲ行ヒシニ直チニ止血セリ

(三) 潰瘍性口内炎

潰瘍性口内炎ニ對スル一般療法ハ悉ク施セシモ更ニ治癒セズ依テ通法ノ如ク口腔内ヲ清潔トナシ

眞空硝子管導子ヲ用ヒ「エツフルベーション」法ヲ十五分間行ヒタルニ或ル部分ノ如キ既ニ著效ヲ示シタリ

右ノ方法ヲ毎二日ニ一回宛十五日間施行シタルニ完全ニ治癒セリ

而シテ治療中ハ二・五%ノ鹽酸加里液ヲ以テ常ニ含嗽セシメ毎朝一二% (約三%液)ノ過酸化水素液ヲ以テ含嗽セシメタリ (以上モーレー氏報告ヨリ)

(四) 潰瘍性口内炎

一般療法ニテ二ヶ月ヲ費シ尙治癒セザリシ症ナリ「エツフルベーション」法ヲ十二日間施セシニ完全ニ治癒セリ

(五) 小膿疱疹性口内炎 Impetigenous Stomatitis

一日四回宛十五日間「エツフルベーション」ヲ行ヒ一方ニハ齒牙ノ清淨ヲ命ジタリ三週間後ニ至リ驚ク可キ效果現ハレタルヲ以テ更ニ八日間加療セシニ口内炎ハ完全ニ治癒シ一般健康狀態亦迅速ニ恢復セリ

(六) 齒槽膿漏

四十五歳男子

數年間ニ互リシ極メテ慢性ノ膿漏ナリ通法ノ療法ハ悉ク施セシモ皆失敗ニ了リシ故X線トHFC

ノ連合法ヲ行ヘリ

加療第三回ニ互リ其效果ノ餘リニ迅速ナルニ一驚ヲ喫セリ加療第七回ニ及ビテハ齒齦狀態ハ全ク生理的觀ヲ呈スルニ至リ動搖セル齒牙ハ固定シ極メテ骨植堅固トナリ且ツ排膿又完全ニ止ミタリ

(二七) 齒槽膿漏

四十二歳女子

下顎ニ殘存セル十個ノ齒牙ハ動搖挺出甚ダシ齒根周圍ニハ多量ノ硬キ石灰鹽沈著ス膿囊甚ダ深く且ツ多量ノ膿汁ヲ排出ス

第一回X線HFC連合法加療後七日目ニ之レヲ診スルニ疼痛全ク去リ他覺的ニハ齒牙ノ植立堅固トナリ齒齦ハ完全ニ齒牙ヲ圍繞シ之レヲ壓スルモ排膿ヲ見ズ

第二回X線及「エツフルベーション」連合法ヲ行フ更ニ第七日後之レヲ診スルニ齒齦ハ健康狀態ト全ク同ジキ「ピンク」色ヲ呈シ吸收退縮セル齒齦ハ完全ニ治癒シ再ビ齒頸部ヲ被フニ至レリ

(二八) 齒槽膿漏

極メテ頑固且ツ陳舊性膿漏ナリ通法ニヨリシニ大ナル效果現ハレザリシヲ以テX線HFC連合法ヲ施セシニ僅々五回ノ加療ニテ完全ニ治癒セリ

(二九) 齒槽膿漏

通法ノ如ク齒石除去洗滌等ヲ行ヒ後チ重「クローム」酸加里ノ二%溶液中ニ浸シタル綿花帶ヲ齒齦
 ニ置キ「ヴァアキユームエレクトロード」ヲ綿花ニ接觸セシメテ「エツフルベーション」ヲ十五分間一日
 二回宛行ヒタリ尙ホ含嗽料トシテハ撒里矢兒酸曹達液ヲ使用セリ十五日後齒牙骨植堅固トナリ齒頸
 部ヨリノ排膿全ク止ミタルヲ以テ一週一回宛加療シ一ヶ月半繼續セシニ齒齦及齒牙ノ關係ハ全ク生
 理的狀態ト毫モ異ル點ナキ迄ニ治愈シニケ年半ノ今日尙再發ノ徵ナシ

(三〇三) 叉神經痛

十九歲女子

發育良好ナラズ月經ハ極メテ不順多クノ場合ニ頭痛或ハ半面痛若クハ胸痛時トシテ齒痛ヲ伴フ習
 慣アリ

下顎左側第一大臼齒ニ齶窩アリ輕度ノ齒髓炎ニテ刺スガ如キ銳痛約二三時間ノ間隔ヲ以テ來襲シ
 安眠スルヲ得ズ疼痛ハ放散性ニシテ左側半面ニ及ブ

良好ト認ムベキ鎮痛法ハ殆ンド之レヲ施シ麻醉劑モ一二回投與セシモ效果更ニナク日ヲ經ルニ從
 ヒ増悪スルノ傾向ヲ示セリ依テ發病後第五日ニ「エツフルヴェシヨン」法ヲ二十分間顔面半側及口腔
 内ニ施セシニ稍々安眠スルヲ得タルモ尙ホ完全ニ治愈セズ更ニ翌日二十分間加療セシニ疼痛全ク消
 散シ再發セズ

(三) 急性齒髓炎

三十歳女子

發育不良貧血性ニシテ齒牙狀態又甚ダ不良上顎大白齒部ニ於ケル劇烈ナル疼痛ニシテ三叉神經上顎枝ノ全分佈區域ニ波及シ患者ハ非常ニ苦悶セシモ時間ノ關係上直チニ診療シ得ザリシ故助手ヲシテHFCヲ十數分間行ハシメタルニ忽チ鎮痛作用現ハレ疼痛全ク消散シ患者ハ殆ンド別人ノ感ヲ覺エタリト云ヘリ

依テ診査セシニ上顎第一大白齒ニ齶窩アリシヲ以テ之レヲ剔刮セシニ齒髓露出シ少量ノ出血ヲ見タルモ患者ハ寸毫モ疼痛ヲ感ゼザリキ

(以上マンチル、パーカー、モーレー、ピース子ツフ等ノ報告ヨリ)